

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	12	課題区分	C	令和6年(2024年)5月20日
横断的な課題	人口減少下にあってもデジタル技術や地域の強みを生かした地域づくりの推進					長野地域振興局
地域重点政策	人口減少下にあっても「デジタル技術や地域の強みを生かし今後も躍進する長野地域」をつくる					
実施機関	長野農業農村支援センター			担当課	所属	技術経営普及課
事業名	もも等の産地復興モデル事業				電話	026-234-9536
					E-mail	<a href="mailto:nagano-nogyo@pref.nagano.lg.jp">nagano-nogyo@pref.nagano.lg.jp</a>
事業の概要	目的 (目指す姿)	ももの主要作業である摘蕾や袋掛け作業の改善や農地の集積、担い手の確保により栽培面積の拡大を図る。 また、ももやりんご等果樹の凍霜害対策として、環境に配慮した新たな防霜対策機器の検討を行い生産量の増加を目指す。				
	現状と課題	・令和元年台風19号の水害により須高地区の堤外地の樹園地が甚大な被害を受けたこと、加えて農業者の高齢化などによりももの栽培面積が減少してきている。 長野地域の栽培面積 H29:552ha ⇒ R1:531ha ⇒ R2:494ha ⇒ R3:461ha ⇒ R4:426ha ・令和3年度に省力効果が確認された水噴射による摘蕾作業について、令和4年度は果実品質や樹体への影響を調査し、ベテラン農業者の作業動画をもとにわかりやすい作業マニュアルを作成した。また、袋掛け作業についてはモデルとなる農業者の作業工程を分析し、写真などを使った作業マニュアルを作成した。 ・これらの知見を他のもも栽培を行う農業者や新規就農者に普及し、作業の省力化を進めて経営面積の拡大(もも栽培面積の集積)意欲を高めていくことが必要である。 ・近年、凍霜害によりももやりんご等の生産が不安定となっており、燃焼法など対策を指導している。併せて、環境に配慮した防霜対策機器の開発が農家から求められているため、毎年発生する果樹せん定枝を凍霜害対策の熱源として活用しつつ、炭化させ樹園地へ貯留する環境に配慮した防霜対策機器の開発が必要である。				
	内容 (変更後の内容)	○ももセミナーなど栽培講習会における省力化手法の啓発 ①「ももの水噴射による摘蕾マニュアル」の印刷(660部) ②「もも袋掛け作業マニュアル」の印刷(500部) ③令和5年5月～令和6年2月:ももセミナー(3回開催)における省力化手法の啓発 セミナー開催日 5月8日 6月12日 2月29日 ・対象は管内でももを栽培している約150戸の農業者 ④令和5年4月～令和6年3月 ・就農間もない農業者やもも栽培を目指す研修生に啓発 ○環境に配慮した防霜対策技術の検討 ①有識者との機器開発方針検討 ②中古ドラム缶等を活用した試作機製作(専門業者、職員)(4器) ③試作機の性能等検討評価				
事業期間	令和5年4月		～	令和6年3月		
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考		
	効率的な作業手法のマニュアル印刷	水噴射による摘蕾、袋掛け作業	147,840	水噴射による摘蕾 税抜@90円×660枚(A4×4ページ) 袋掛け作業 税抜@150円×500枚(A4×2ページ)		
	環境に配慮した防霜対策技術の検討	「炭化器兼防霜熱源器」の加工委託、資材等購入	171,329	「炭化器兼防霜熱源器」の加工委託 99,825円 「炭化器兼防霜熱源器」の資材等購入 煙突 ドラム缶等 71,504円		
	合計		319,169			
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	作業時間の軽減		15%	12.4%	○ 達成	
	担い手への農地集積		800a	818a	● 一部達成	
	新規栽培者		1名	1名	○ 未達成	
新たな防霜機器試作		6機	4機			
事業	・作業時間軽減は、未達ながら水噴射摘蕾・効率的な袋掛け、自動草刈機を組み合わせた結果、12.4%の作業時間軽減ができた					

業実績・成果	<p>不時間稼働ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手への農地集積、新規栽培者の確保については、計画通りに達成できた。</li> <li>・新たな防霜機器は、当初は煙突付き6機の試作を想定していた。だが委託先業者からの提案「農家自身が加工できるようなものも試行したらどうか」を採用し、煙突無しを2機、ドラム缶を縦に半分切りかまぼこ状にしたもの2機を試作した。いずれも燃焼は十分可能だが、炭化の精度向上は今後検討する必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ももセミナーなど栽培講習会における省力化手法の啓発 作成した、「ももの水噴射による摘蕾マニュアル」「もも袋掛け作業マニュアル」を活用し省力化手法の普及を図っていく。</li> <li>○環境に配慮した防霜対策技術の検討 試作した炭化器兼防霜熱源器については、更なる改良や炭化させる手法の検討と炭の評価、熱源としての供給時間などを調査していく。</li> </ul>